

安定収量確保へ
次郎柿剪定学ぶ

三重・JA伊勢
玉城 部会

【三重・伊勢】JA
伊勢玉城柿部会は12月
中旬、玉城町の園地2
カ所で柿「次郎」の剪
定（せんてい）講習会
を開き、合わせて33人
が参加した。

講習会の当日は、三
重県中央農業改良普及
センターの職員が、実
演を交えながら剪定の

手順や方法を説明。参
加者は、注意点や側枝
の扱い方などを確認し
ていた。



同JAの担当者は
「剪定は安定した着果
量確保と、樹勢や樹形
の維持のために行う重
要な作業。産地として
安定生産を目指し、し
っかり取り組んでいき
たい」と話していた。

同部会では、部会員
78人が約25畝で柿「次
郎」を栽培している。
名古屋や県内の市場に
出荷している。

普及センターの職員の指
導の下、剪定方法を確認
する部会員ら